

# にじ

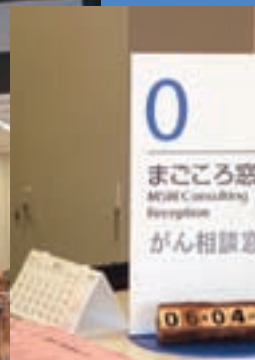
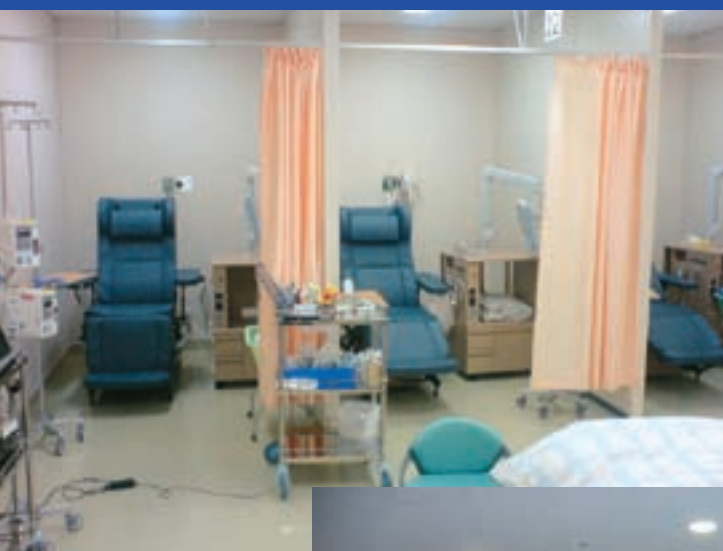
## 特集

### 高知医療センター がんセンターの診療実績 …… P2~6

# 8

AUGUST.2010 Vol.58

- 第31回高知医療センター職員による学会出張報告  
(脳神経外科 医長 石井 隆之 医師) …………… P6
- 地域医療連携病院のご紹介 (医療法人広正会 井上病院) …………… P7
- 高知医療センターニュース Vol.15 …………… P7
- 高知医療センターイベント情報 …………… P8



写真：当院がんセンターホームページのトップページ：[http://www2.khsc.or.jp/gan\\_center/index.html](http://www2.khsc.or.jp/gan_center/index.html)

高知医療センターの基本理念  
 医療の主人公は患者さん  
 高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

# がんセンターの診療実績

高知医療センター・がんセンター センター長 森田 荘二郎

高知医療センター開院以来がんセンターで治療を行った、5大がん（胃がん、大腸がん、肝臓がん、肺がん、乳がん）および食道がん、婦人科がん、泌尿器がんの手術件数、内視鏡的がん治療（粘膜下層剥離術 ESD、粘膜切除術 EMR）、非手術的低侵襲治療（インターベンション治療）、放射線治療、外来化学療法件数の集計を行いましたのでご覧ください。

今回のデータは、医事算定データから悪性腫瘍として治療された件数を抽出し、関連診療科に確認を

してもらいました。本年度から、当院では医療情報センターが立ち上がり、データ収集を一元管理できるようになりました。現在収集方法の確立に向け鋭意努力中ですが、今後は、5年生存率等の治療成績、及びがんセンターとしてのクオリティー・インディケータ（QI）を公表していく予定です。

また、2007年4月から開設した「がん相談窓口」での相談件数、及びがんセンター関連の著書も紹介いたします。

### 1. 消化器外科・がん症例手術実績（（ ）内は鏡視下手術、乳がんは温存手術）

	2005年3月～	2006年	2007年	2008年	2009年
食道がん	13	35	27	12	24
胃がん	137 (1)	183 (10)	173 (30)	133 (33)	138 (29)
大腸がん・直腸がん	138	224 (61)	201 (98)	169 (78)	242 (117)
肝臓がん	38	62	52	64	70
膵臓がん	17	24	31	35	32
胆嚢・胆管がん	7	27	21	22	18
乳がん	24 (11)	32 (11)	28 (13)	19 (10)	26 (16)

### 2. 呼吸器外科・がん症例手術実績（（ ）内は鏡視下手術）

	2005年3月～	2006年	2007年	2008年	2009年
原発性肺がん	48 (20)	57 (25)	62 (24)	57 (24)	50 (22)
転移性肺がん	10 (7)	8 (4)	3 (1)	11 (8)	12 (11)
縦隔腫瘍	6	9	6	8	6
胸壁腫瘍	3	4	0	3	6

### 3. 婦人科・がん症例手術実績（（ ）はレーザー及び頸部切除）

	2005年3月～	2006年	2007年	2008年	2009年
子宮頸がん	6	20 (12)	26 (18)	15 (5)	26 (13)
子宮体がん	8	5	13	7	22
卵巣がん、卵管がん、腹膜がん（境界悪性を含む）	10	7	20	11	16
外陰がん	0	0	1	0	0

### 4. 泌尿器科・がん症例手術実績（（ ）内は鏡視下（補助下）手術）

	2005年3月～	2006年	2007年	2008年	2009年
腎がん	16 (4)	20 (6)	9 (1)	11 (1)	12 (5)
腎盂・尿管がん	8 (2)	7 (3)	6 (1)	11 (9)	6 (2)
前立腺がん	17	33 (17)	33 (10)	14	22
膀胱がん	61 (58)	64 (58)	64 (54)	80 (72)	59 (50)
その他のがん	4	2	3	5	5

## 5. 腫瘍内科・外来化学療法症例実績

※症例数：腫瘍内科が担当して外来化学療法で治療が行われた症例数  
化学療法件数：1人が5回治療をしたら5件とする「延べ治療件数」

	2005年3月～	2006年	2007年	2008年	2009年
胃がん	40	40	33	34	38
大腸がん	110	119	145	158	176
肝臓がん	9	6	6	3	5
胆道がん	9	7	13	10	15
膵臓がん	16	19	20	21	15
外来化学療法件数（延べ）	3,269	4,161	4,398	5,538	6,589

## 6. 放射線療法科・放射線治療実績

	2005年3月～	2006年	2007年	2008年	2009年
脳腫瘍・脳転移	8	13	30	27	31
咽頭・喉頭・副鼻腔・唾液腺がん	19	23	22	34	15
口腔・口腔底・舌がん	8	11	23	10	10
肺がん	30	40	42	30	30
食道がん	19	27	22	19	30
大腸・直腸・肛門がん	11	8	8	21	23
肝胆膵がん	15	18	29	34	26
乳がん	23	31	46	36	48
前立腺がん	10	22	22	12	9
婦人科がん	4	12	9	12	20
悪性リンパ腫・造血器がん	9	19	9	7	19
骨腫瘍・骨転移	60	58	75	71	61
その他	16	17	23	12	19
放射線治療計画件数	232	299	360	325	341

## 7. 消化器科・がん症例内視鏡的治療実績

	2005年3月～	2006年	2007年	2008年	2009年
食道がんEMR	2	7	2	4	3
食道がんESD	3	3	1	12	7
胃がんEMR	12	6	1	2	4
胃がんESD	26	50	55	50	46
大腸がんEMR	7	6	11	8	8
大腸がんESD	0	0	1	0	2

## 8. 放射線療法科・がん症例 IVR 実績

	2005年3月～	2006年	2007年	2008年	2009年
肝動脈塞栓術	183	255	319	317	294
ラジオ波焼灼療法	6	13	22	23	25
経皮経肝的アルコール（酢酸）注入療法	13	10	6	2	22
動注化学療法	10	37	22	15	24
動注リザーバー留置術	7	12	5	4	1
CT誘導下神経ブロック	5	2	2	0	1
CVリザーバー	256	294	342	437	426

高知医療センター・がん相談窓口相談件数

相談件数も、月 50 件前後くらいになってきましたが、最近の傾向としては、医師から紹介があって相談に訪れる人数が増加しており、また相談時間も 1 時間以上に及ぶことも多くなってきています。がん相談員さんへの相談がメール (gann\_consult@khsc.or.jp) でもできるようになりました。ただし、すぐにはお返事をする事ができない場合がありますので、ご了承ください。



高知医療センター・がんセンター関連書籍のご紹介



深呼吸—あなたに、がんが告げられた—

- 目次
- はじめに
  - 1.10 人の患者さんの名言・迷言
  2. 患者さんまたは家族の人が、がんを告げられたときの疑問・質問
  3. がん治療の最終目的
  4. がんの告知について
  5. がんの再発を告げられたとき
  6. がん相談窓口
  7. がん患者の会
  8. 人の死
  9. 医療と生命力
  10. 人の幸せ

非売品ですが在庫が少数部ありますので、ご希望の方は封書にて「深呼吸希望」・送付先をご記入のうえ、送料として 140 円分切手を同封し下記までお送りください。在庫が無くなりましたら切手は返送いたしますので、どうぞご容赦ください。

申込先  
〒781-8555 高知市池 2125-1  
高知医療センター図書室 冊子係



中心静脈ポートの使い方～安全挿入・留置・管理のために～

- 目次
- ポートとは\_定義、歴史、構造、利点と欠点
  - ポート留置の基本
  - 各社ポートの挿入法、特徴、注意点
  - ポートの管理方法
  - Q&A-トラブルシューティング
  - 不具合の取り扱いと一般的な流れ
- 付録 1 ポート製品一覧  
付録 2 ポート関連手技料

2008 年 10 月 5 日発行  
編著者：荒井保明  
森田荘二郎 高知医療センターがんセンター長  
竹内義人  
稲葉吉隆  
新榎 剛  
出版社：南江堂  
定価：本体 2,700 円+税  
ISBN：978-4-524-25085-1



## 術中看護記録からのメッセージ

### 目次

#### I 術中看護記録とは

#### II 各論

1. 「食道切除術患者」のリスク
2. 「胃切除術患者」のリスク
3. 「胃全摘術患者」のリスク
4. 「胃十二指腸潰瘍穿孔閉鎖術患者」のリスク
5. 「結腸切除術患者」のリスク
6. 「直腸低位前方切除術患者」のリスク
7. 「腹会陰式直腸切除術・人工肛門造設術患者」のリスク

8. 「肝切除術（肝葉切除術）患者」のリスク
9. 「腹腔鏡下胆嚢摘出術患者」のリスク
10. 「総胆管結石・切石術患者」のリスク
11. 「臍頭十二指腸切除術患者」のリスク
12. 「臍体尾部切除術患者」のリスク
13. 「脾臓摘出術患者」のリスク
14. 「甲状腺切除術患者」のリスク
15. 「乳房切除術患者」のリスク
16. 「胸腔鏡下肺切除術患者」のリスク

III 麻酔記録（チャート）から読み取る術後患者のリスク

当院の著者：

II 各論 206頁～228頁

8 「肝切除（肝葉切除術）患者」のリスク

著者：高知医療センター 中央手術 国澤ひとみ、山口亜佐子、西山由加、消化器外科 志摩泰生

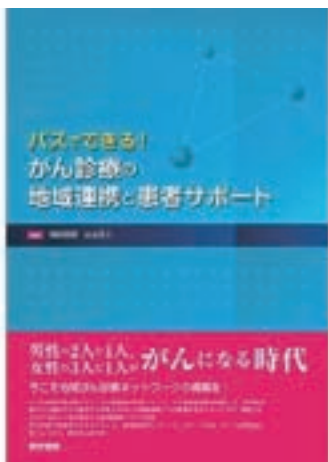
2008年10月15日発行

編集：及川慶浩

出版社：真興交易医書出版部

定価：本体3,800円＋税

ISBN：978-4-88003-588-8



## パスでできる！がん診療の地域連携と患者サポート

### 目次

- 第1章 検査を始める前に
- 第2章 がん診療における地域連携に必要な要件
- 第3章 がん診療の現状と地域連携 - わが国のがん対策について
- 第4章 地域連携のためのネットワーク構築の類型化
- 第5章 がん診療における地域連携パス
  1. 概説
  2. 胃がん
  3. 大腸がん
  4. 肺がん

5. 肝がん
  6. 乳がん
  7. 前立腺がん
  - 第6章 緩和ケアと地域連携
  - 第7章 がん診療における地域連携室の役割
  - 第8章 がん患者の退院調整
  - 第9章 ホスピス病院と地域医療機関との連携
  - 第10章 がん診療におけるかかりつけ医の役割と連携
  - 第11章 保険薬局の役割と課題
- 索引

当院の著者：

第5章 がん診療における地域連携パス

3. 大腸がん

著者：高知医療センター 腫瘍内科 辻晃仁

2009年12月1日発行

編集：岡田晋吾 谷水正人

出版社：医学書院 定価：本体4,000円＋税

ISBN：978-4-260-00883-9



## IVR 看護ナビゲーション

### 目次

#### I. IVR 総論

- Interventional Radiology (IVR) とは  
 血管系 IVR (Vascular IVR)  
 非血管系 IVR (Non-vascular IVR)  
 IVR 看護の役割  
 インフォームド・コンセント  
 副作用・合併症とその対策  
 放射線被ばくと防護、放射線障害への対処  
 IVR における急変時の対応  
 前投薬

#### II. IVR 各論

- |         |                   |
|---------|-------------------|
| 頭頸部     | 骨盤内臓器             |
| 心臓      | 腹腔・後腹膜腔           |
| 肺       | 骨軟部               |
| 血管 - 動脈 | 救急（外傷）            |
| 血管 - 静脈 | 付録                |
| 血管 - 門脈 | IVR に必要な解剖図譜      |
| 消化管     | 看護計画              |
| 肝臓      | TACE の入院診療計画書     |
| 胆道      | TACE の医療者用クリニカルパス |
| 膵臓      | TACE（術中用クリニカルパス）  |
| 腎臓      | 術中投与薬剤            |
|         | 略語集               |

当院の著者

I. IVR 総論

インフォームド・コンセント：放射線療法科 森田荘二郎

前投薬：放射線療法科 森田荘二郎

II. IVR 各論

心臓 総論：循環器科 山本克人

冠動脈形成術（PTCA）：循環器科 尾原義和

心筋アブレーション：循環器科 伴場圭一

看護の実際：看護局 伊東美佐

血管 - 静脈 総論：放射線療法科 森田荘二郎

下大静脈フィルター留置術：放射線療法科 野田能宏

看護の実際：看護局 伊東美佐

中心静脈リザーバー：放射線療法科 森田荘二郎

血管内異物除去術：放射線療法科 森田荘二郎

骨盤内臓器 総論：放射線療法科 森田荘二郎

骨盤内悪性腫瘍に対する動注化学療法：経皮的

リザーバー留置：放射線療法科 秦康博

看護の実際：看護局 小野文恵

付録

術中投与薬剤：放射線療法科 森田荘二郎

略語集：放射線療法科 森田荘二郎

2010年5月15日発行

監修：栗林幸夫

編著：吉岡哲也

森田荘二郎

（高知医療センターがんセンター長）

齋藤博哉

出版社：医学書院

定価：3,990円（本体3,800円＋税5%）

### IVR はチーム医療。

### 看護師の役割は大きい

IVR に携わる看護師向けの実践的な書物がほとんどない中で、各施設では独自のマニュアルを作って看護にあたっている。その現状を打破するために編集された本書は、医師の IVR 手技、看護師のケアが系統立てて解説されている。2007 年には「日本 IVR 学会認定 IVR 看護師制度」も発足し、ますます IVR 看護が期待される中、時宜にかなった実践書。

## 第31回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

## 第30回日本脳神経外科 コンgres総会 in 横浜

2010年5月7～9日  
脳神経外科 医長 石井 隆之



学会会場前にて：石井隆之医師

2010年5月7日から9日に第30回日本脳神経外科コンgres総会がパシフィコ横浜の国立大ホール（横浜国際会議場）で開催されました。本学会は、脳神経外科医の生涯教育を目的として1981年に設立され、以来30年に亘って一貫してその重責を担ってきました。日本の脳神経外科医は、外科治療に特化した欧米の脳神経外科とは異なり、脳、脊髄、末梢神経を含むすべての神経系およびそれらに関連する骨、筋肉、血管などの疾病の予防、診断、手術を含む総合的治療、リハビリテーションなどに積極的に関与してきました。その結果、日本における脳神経外科は脳卒中や脳腫瘍、頭部外傷や脊椎脊髄疾患、小児神経疾患や機能的脳疾患などを対象に、診断、検査から、手術、放射線治療、血管内治療、薬物治療、理学療法などの全ての治療、予防まで、非常に広い分野を担当する診療科として発展してきました。

第30回日本脳神経外科コンgres総会の主題は、「手術再考」、すなわち、マイクロサージェリー導入により飛躍的に発展をとげた脳神経外科の手術治療は、近年の科学と工学の進歩に伴い、さらに大きく変貌を遂げており、また、定位放射線治療や血管内治療による multimodal treatment の普及と、臨床成績の蓄積により、手術の適応範囲が変化する一方、脳深部刺激治療（DBS）や再生医療に代表される新しい治療の導入によって、対象領域が拡大してきています。このような現状を踏まえ、生涯教育の立場から、手術治療の果たす役割と将来の展望を俯瞰、考察する機会となりました。

会期前日の5月6日午後には、手術手技の習得を目的として、ハンズオンセミナーとして、神経内視鏡、脳血管内治療、脊椎脊髄、血管吻合、DBS（Deep Brain Stimulation）の5コースが開かれ、私も参加させていただきました。本会の各セッションでは、手術再考のテーマに即して、悪性グリオーマ、未破裂脳動脈瘤、脳脊髄血管奇形、閉塞性脳血管障害、

頭蓋底外科、ニューロモデレーション、てんかんの外科、脊椎外科、小児神経外科などの各専門分野における最新の情報を共有し、update なスタンダード治療を理解した上で、外科治療の役割について考える機会が提供されました。参加者は非常に勉強熱心で、朝7:20から始まるモーニングセミナーも座席に座れないこともありました。

悪性グリオーマについては、新薬（テモダール）の出現により、平均生存期間が2年、5年生存率は10%まで向上したのですが、まだまだ満足できるレベルではありません。Functional neuronavigation や覚醒下手術、細胞選択的なピンポイント照射が可能であるホウ素中性子捕捉療法（BNCT）などの有効な治療法が紹介され、今後、ますます治療成績が向上してくる可能性を感じました。

巨大脳動脈瘤については、将来破裂する可能性が高いことが知られています。しかし、治療困難なものが多く、京都大学の宮本亨教授は、「巨大脳動脈瘤ではさまざまなテクニックを駆使して複数のクリップで血管を形成するのが目標であるが、expert hand であってもその治療はギャンブル性が低いとはいえない。軽症であることも多い未破裂の場合はさらに悩ましい。予防的外科治療ではエビデンスとインフォームド・コンセントが重要であるが、困難な治療においては限界がある・・・（中略）幅広い治療選択肢を持ち、柔軟な発想と着実な技術により、治療困難な病変克服のために飽くなき挑戦をすることは「脳神経外科の魅力」である。」と発表され印象に残りました。

さらに未破裂脳動脈瘤については、コンピュータによる血流解析を行い、動脈瘤のどの部分が破れやすいのかを予測することで治療方針の参考にするといった発表や、近年デバイスの進歩もあり、台頭著しい血管内治療と、開頭術によるネッククリッピングの二つの治療法の選択についても議論となりました。

開催中、風は強かったのですが、概ね天候にも恵まれました。また、中華街でも旧友と久しぶりに再会し、美味しい中華料理も堪能できました。密度の濃いスケジュールで脳ミンが焼け付きを起こしましたが、私にとって非常に有意義な学会となりました。有難うございました。





## 医療法人広正会 井上病院

〒781-1101 土佐市高岡町甲2044  
 電話：088(852)2131 FAX：088(852)2133  
 URL：http://inouehosp.sakura.ne.jp/

(診療科)

内科、呼吸器科、消化器科、泌尿器科、循環器科、外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、眼、放射線科、アレルギー科、肛門科

(併設施設)

訪問看護ステーションひまわり、デイサービスセンターわかば、居宅介護支援事業所

(関連施設)

グループホーム「すずらん」、グループホーム「さつき」



を積んでいこうと思っています。

高：貴院は訪問看護ステーション、デイサービス、居宅介護支援事業所の併設施設がございますが、在宅支援や介護支援についてお聞かせください。

井：理学療法士は常勤3名、非常勤2名です。訪問リハビリテーションでは、通院が困難な利用者に対して、自宅へ理学療法士を派遣し、医師の指示に基づいて心身機能の維持回復や日常生活の自立支援のためのリハビリテーションを行っています。また、居宅介護支援事業所は病院に併設しており、訪問看護、デイサービス、訪問リハビリと連携し、利用者のニーズに合ったケアプランを提供しています。

高：最後に高知医療センターとの連携についてご意見をお聞かせください。

井：急性期の患者さんをこれまで数多く受け入れてくださり大変有難く、また地域医療に携わる者には心強い限りです。搬送した患者さんを送り届けていただく際も、必ず医師が救急車に同乗してこられる心づかいにも頭が下がります。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。

写真：前列左から、羽方義恵事務長、柏井英助院長、岡村美知子内科医師、後列左から、前田知子看護師長、外来主任の大井さゆりさん、リハビリ主任の川島重彦さん

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～18:00	●	●	●	●	●	△	△
9:00～17:00	△	△	△	△	△	●	△
9:00～12:30	△	△	△	△	△	△	●

医療法人広正会井上病院は、現在の井上廣理事長が昭和2年8月に現地に開院し、それ以来50余年、地元で根付いている病院です。病床数は、一般病床48床、介護療養病床60床の合計108床です。関連施設に「グループホームすずらん」、「グループホームさつき」があり、併設施設としては「訪問看護ステーションひまわり」、「デイサービスセンターわかば」、「居宅介護支援事業所」があります。また、外来受診をされる患者さんを対象に、土佐市全域、春野町、いの町(天王ニュータウン周辺)、須崎市(浦ノ内周辺)から送迎もしています(日曜、祭日はしていません)。

(井：井上病院、高：高知医療センター)

高：貴院の特徴についてお聞かせください。

井：当院は急性期の医療機関より、急性期を脱した地元の患者さんを積極的に受け入れることで、地域に貢献していくことを目指しています。関連施設のグループホームや併設施設とも連携をしながら、患者さんのニーズにあった医療の提供をしています。そして、地域の患者さんにより良い医療、看護、介護を提供するため、全ての職員に積極的に学会や研修会、講習会の参加を勧めています。また、インシデント、アクシデントが生じた際には、小規模病院のネットワークを活かし、臨時にリスクマネジメントの会を開くこともあります。

高：地域との連携や他医療機関との連携について、貴院の取り組みをお聞かせください。

井：土佐市の地域性として、急性期に高知市内の三次救急病院へ搬送されることが多く、慢性期となれば可能な限り受け入れることを目指しています。ただ、常勤医の科の専門性ゆえにお断りすることもあります。地元の人が地元で回復できるよう職員一同、研鑽



## 第12回地域医療連携研修会が開催されました。

NEWS  
Vol.15

7月24日(土)に、高知医療センター2階、くろしおホールにおきまして、「第12回地域医療連携研修会」が開催されました。今回のテーマは「糖尿病」で、「糖尿病の最近の話題」と題して、当院の代謝・内分泌科科長の菅野尚先生の講演と、「糖尿病食事療法を継続するための指導ポイント～患者さんの立場になって～」と題して、栄養局の渡邊慶子局長の講演が行われました。猛暑の中、たくさんの方々にお越しいただきました。

次回は9月25日(土)14:00～です。テーマは「がん化学療法のポイント」で当院腫瘍内科、診療科長の辻晃仁医師による講演を行います。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



第12回地域医療連携研修会の様子

# 高知医療センター イベント情報

日	曜	8月～	
8	日	<b>高知県周産期症例検討会</b> ※事前申込不要、参加費無料	
		内容	テーマ「周産期死亡例、新生児死亡例の検討」 症例報告施設：幡多けんみん病院産婦人科、国立病院機構高知病院産婦人科、高知赤十字病院産婦人科、高知大学医学部付属病院産婦人科、高知医療センター産婦人科・小児科
		場所	高知医療センター2F ころしおホール 時間 9:30～12:30
		お問い合わせ先：高知医療センター 総合周産期母子医療センター 電話：088(837)3000(代)	
10	火	<b>胎児心疾患の超音波スクリーニング検査講習会</b> ※事前申込不要、参加費無料	
		内容	第1部：胎児心スクリーニングのA to Z(講演) 第2部：STICを使った胎児エコーの実習 ～TGA(45分)、COA(45分)、TAPVR(30分)～ 第3部：カラドップラーを活用した胎児心スクリーニング(講演) 講師 神奈川県こども医療センター 川瀧 元良 氏
		場所	高知医療センター2F ころしおホール 時間 18:30～22:00
		お問い合わせ：高知医療センター事務局 医事課 濱田 電話：088(837)3000(代) ※直接参加可能ですが、当日ご希望される方にお弁当をご用意いたします。(お茶代込700円。8/2までに事務局濱田までご連絡ください。)	
23	月	<b>第110回救急医療症例検討会</b> ※事前申込不要、参加費無料	
		場所	高知医療センター2F ころしおホール 時間 17:30～19:00
お問い合わせ先：高知医療センター・救命救急センター			
29	日	<b>平成22年度日本ホスピス緩和ケア協会四国支部総会・公開セミナー</b> ※参加費無料	
		内容	公開セミナー：高齢者医療と口腔ケア ～緩和ケアとの接点～ 講師 高知医療センター 歯科口腔外科 科長 立本 行宏 氏 公開セミナー：在宅緩和ケア地域連携パス 高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会 事務局
		日本ホスピス緩和ケア協会四国支部会(公開セミナー終了後会員のみ) 15:20～16:20	
		場所	高知医療センター2F ころしおホール 時間 13:30～16:20
お問い合わせ先：NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会四国支部事務局(高知市葛島1-9-50 高知厚生病院内) 電話&FAX:088(884)6470 E-mail:kpcs-office@kanwacare-kochi.net			
9/25	土	<b>第13回地域医療連携研修会</b> ※事前申込不要、参加費無料	
		内容	がん化学療法のポイント 講師 高知医療センター 腫瘍内科 診療科長 辻 晃仁 氏
		場所	高知医療センター2F ころしおホール 時間 14:00～15:40
お問い合わせ先：高知医療センター 地域医療連携室			

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

## 編集後記

高知県が最もにぎわう季節が今年もやってきました。医療センターに来て、あっという間に1年と4ヶ月が経ちました。右も左も分からず、ただただ戸惑いと一緒に過ごしてきました。来たばかりの頃と比べると少しは成長できているのかな？と振り返ってみると、まだまだな事ばかりです。社会人になってから時間が経つのが本当に早く、日々の業務に追われると、ふと原点を見失うときがありますが、「ソーシャルワーカーになりたい」と思ったときに立ち返りながら、一歩ずつ着実に成長していきたいと思っています。まだまだ半人前ですが、患者さんやご家族、先輩方に教えていただきながら、日々精進していきますので、今後ともよろしく願いいたします。(地域医療連携室 MSW 吉村)



平成22年8月1日発行  
にじ 8月号(第58号)  
責任者：堀見 忠司  
編集人：地域医療連携広報委員  
特別編集委員  
発行元：地域医療センター  
地域医療連携本部  
印刷：共和印刷株式会社

高知医療センター  
〒781-8555 高知県高知市池2125-1  
TEL: 088(837)3000(代)